

公開実用 昭和61-70301

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭61-70301

⑤ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和61年(1986)5月14日

F 21 L 7/00

Z-6908-3K

15/10

6908-3K

G 02 C 5/00

6773-2H

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 メガネ式照明器具

⑯ 実 願 昭59-153641

⑰ 出 願 昭59(1984)10月13日

⑱ 考 案 者 花 輪 明 彦 東京都杉並区南荻窪1丁目36番1号

⑲ 出 願 人 花 輪 明 彦 東京都杉並区南荻窪1丁目36番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 岡 本 寛 外1名

明 細 書

1. 考案の名称

メガネ式照明器具

2. 実用新案登録請求の範囲

フレーム本体と、該フレーム本体に蝶着された2本のつると、前記フレーム本体中央部に形成された支持部とから成るメガネ式フレームに、1以上の電球着座部と、該電球着座部の電球に接続された接続子と、該接続子に接続される電源が装着された電源保持部とを有するメガネ式照明器具。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、携帯用の照明器具であって、メガネ式に眼前に固定保持できるものに関する。

〔先行技術〕

従来、身体に固定保持できる携帯照明器具には、炭鉱夫が頭部に取り付けるヘッドランプあるいは登山家が同じく頭部に取り付けるキャンピング用ヘッドランプがある。

〔考案が解決しようとする問題点〕

しかるに、上記炭鉱用ヘッドランプは、光源を額際に鉢巻状にバンドで固定し、電源を背中に背負う形式であるため嵩張り簡易な使用には向かない。一方上記キャンピング用ヘッドランプは電源と光源とを一体にして成るが、炭鉱用ヘッドランプと同様、それらを鉢巻状に額際にバンドで固定保持する形式であるため、その装着には両手を要し、また、帽子を破っている場合にはそれを脱がなければつばが邪魔して照明の用をなさないなどの問題があった。また、これらヘッドランプは髪を直接押さえつけるため、使用を敬遠する人も多かった。特にガソリンスタンドとか自動車整備場の作業員など、街中で日常使用されるには抵抗があった。しかるに、彼ら作業員はエンジンルームの点検、修理などうす暗く、かつ狭い所で作業しなければならないことが多いが、上記炭鉱用ヘッドランプでは嵩が張り簡易な使用には向かず、また、上記キャンピング用ヘッドランプでは、作業員の両手

は通常油汚れているため頭部への装着に当たってバンド等が汚れ、ひいては髪を汚すなどの問題がある。また作業員は一般に作業帽を被ることが多いが帽子を被ったままでの上記ヘッドランプの使用は、上記のとおり不都合である。さらに、照明器具として懐中電灯、あるいは吊り下げ灯などを使用することが一般に行われているが、懐中電灯では常に片手がそれに占領されてしまう問題があり、また吊り下げ灯では作業箇所を変えるたびに照明の位置や角度を変更しなければならない不便がある。

〔考案の目的〕

そこでこの考案の目的は、片手で着脱が可能で、嵩張らず、かつ体裁が良くて簡易に使用できる照明器具を提供することである。

〔問題点を解決するための手段〕

上記問題点を解決し、この考案の目的を達成する手段として、本考案のメガネ式照明器具は、フレーム本体と、該フレーム本体に蝶着

された2本のつると、前記フレーム本体中央部に形成された支持部とから成るメガネ式フレームに1以上の電球着座部と、該電球着座部の電球に接続された接続子と、該接続子に接続される電源が装着された電源保持部とを有することを特徴とする。

〔実施例〕

以下この考案の構成を、図面に示す一実施例に基づいて詳細に説明する。

第1図に本考案に係るメガネ式照明器具の一実施例を斜視図で示す。第2図は電球着座部および電源保持部の断面図である。

このメガネ式照明器具は、一体のフレーム本体と、該フレーム本体1の両端縁に各々取り付けられた蝶番6、6'と該蝶番6、6'に取り付けられたつる2、2'と、前記フレーム本体1中央部に形成された支持部3とから成るメガネ式フレームを基体とし、該基体の適宜箇所、すなわち第1図の本実施例においてはフレーム本体1の両端部に各々電球4、

4' を保持固定する電球着座部 5、5' がフレーム本体 1 と一体に形成され、該電球着座部 5 の電球 4 の端末に当接される接続子 10、11 が電球着座部 5 の裏面に僅かに突出して形成され、一方、つる 2 の前記蝶番 6 を介してフレーム本体 1 端部に隣接する端部には、電源たる電池 8、9 を装着できる袋状の電源保持部 7 が、つる 2 と一体に形成されている。電源 8、9 の間隙にはストッパー 12 を挿入して、電源 8、9 をその装着状態から離脱しないよう止めている。

使用に当たっては蝶番 6、6' を介してつる 2、2' を開き、接続子 10、11、10'、11' に電池 8、9、8'、9' の端子を各々当接することにより、電流を流し点灯すればよい。つる 2、2' は両側頭部を缺んだ状態のまま耳上部に係止され、かつ支持部 3 は鼻骨上に載置されるから、フレーム本体 1 は眉毛上方に安定して保持固定されると共に、電源 8、9、8'、9' と接続子 10、11、10'、11' は常時、本考

案のメガネ式照明器具使用中接触し続け、電流の導通状態が維持される。

また第2の実施例として、図示されていないが、前記電球着座部5を、フレーム本体1の中央部に複数（例えば3個）付設させてもよい。この場合には電源保持部7は前記第1実施例の場合と同様つる2の端部に、また、接続子10、11も前記第1実施例の場合と同様フレーム本体1の端部に各々形成するが、接続子10、11から導線を引き出してフレーム本体上を這わせ電球着座部5の電球4に接続させればよい。

〔考案の効果〕

この考案に係るメガネ式照明器具の使用に当たっては、メガネを掛けるのと同様に、片手でつる根部をつまんでつるを上げ、耳上部に係止するだけで電球が点灯し、そのまま眼前を照明し続ける。また、取り外しも片手で同じくつる根部をつまんで耳上部から外し、角度を変えれば、つるは折りたたまれて消灯

される。ここで、つる根部は肌や髪に直接触れる箇所ではないから、たとえ油污れた手であっても着脱にとって不都合はない。また、帽子を被っていても、あるいは眼鏡をかけていても、それらに邪魔されることなく使用できる効果もある。さらにその構造上小型であるから、簡易な使用ができ、かつ、意匠を様々に工夫することができるから、体裁もきわめて良く、日常気軽に使用することができる効果がある。したがって、本考案はガソリンスタンドや自動車整備場、あるいは、活版組み職工や新聞、雑誌の校閲など、各種分野で利用される有益な考案である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本考案に係るメガネ式照明器具の斜視図である。第2図は電球着座部および電源保持部の断面図である。

- 1 ----- フレーム本体
- 2 ----- つる

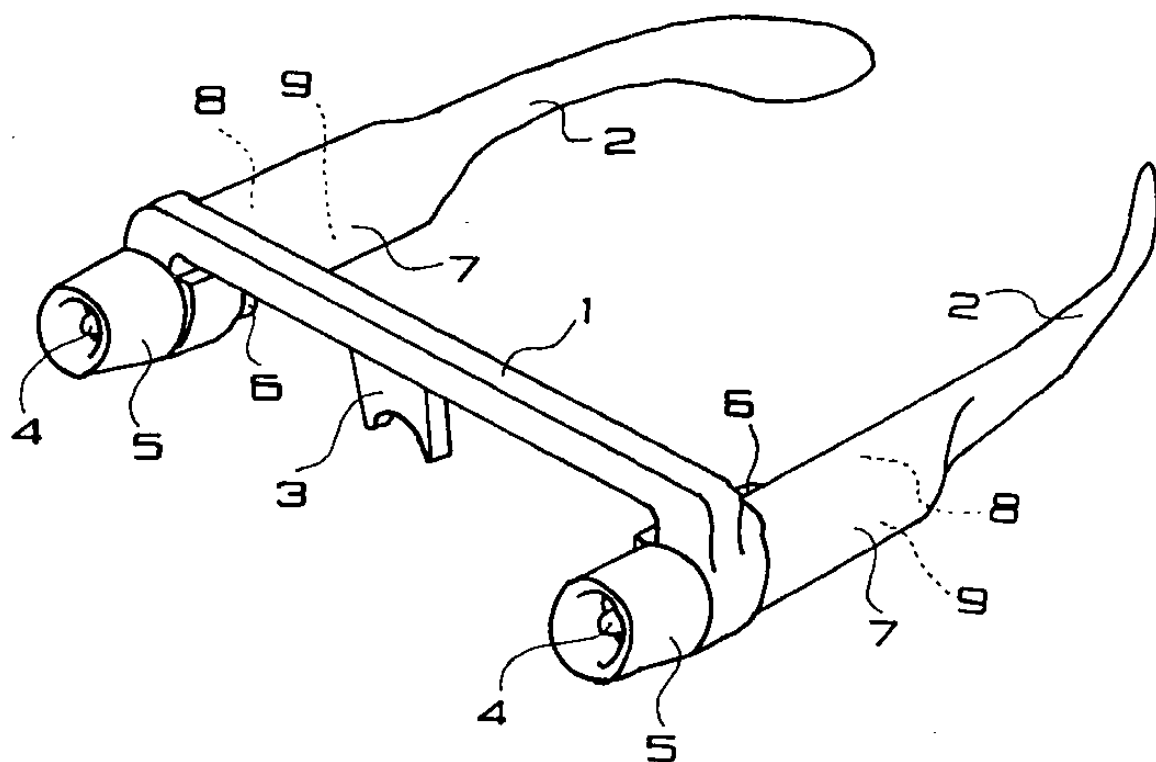
- 4 電 球
- 6 蝶 番
- 7 電 源 保 持 部

代 理 人 弁 理 士 岡 本 寛

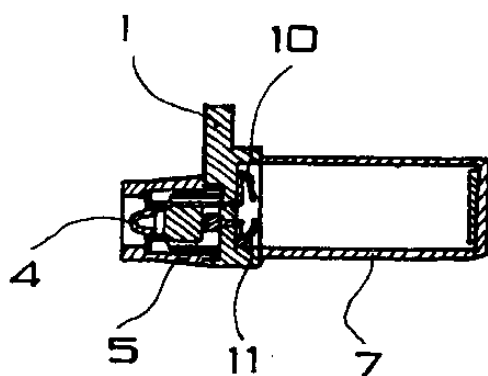
(ほ か 1 名)



第 1 図



第 2 図



代理人 弁 理 士 岡 本 寛
(ほか 1 名)

